

8月25日正午必着

明石春浦先生書

楓落早鴻過 洞庭無限波相
 望終不見 只是白雲多

楓落早鴻過 洞庭無限波 相望終不見 只是白雲多 (宋 樂)

西 墨濤先生書

江碧鳥逾白 山青花欲然
 今春看又過 何日是歸年

江碧鳥逾白 山青花欲然 今春看又過 何日是歸年 (杜 甫)

※玄和七月号 (No.460) P 1 に、西墨濤先生「今年度から日展会員となられました。」とあるのは「日展会友」の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。



明石幸子書

石走る 瀧もどろに 鳴く蟬の 聲をし聞けば 京師し思ほゆ (大石蓑麻呂)

柳結濃陰 (黄 淮)

柳濃陰を結ぶ

柳の枝が茂り、濃い木かげをつくっている。

仰面青天遠 夜烏啼早秋
銀河花外轉 時有一星流 (陳文述)

面を仰げば青天遠く、夜烏早秋に啼く。
銀河花外に転じ、時に一星の流るる有り。

仰げば空はあくまで高く、どこかで初秋になく夜烏の声が聞こえる。見ると、銀河が花かげの向うに横たわっていて、流れ星が一つ、すいと飛んだ。

次北固山下 (王 湾)

北固山の下に次る 王湾

客路青山外 行舟緑水前

客路 青山の外 行舟 緑水の前

潮平兩岸闊 風正一帆懸

潮平らかにして兩岸闊く 風正しくして 一帆懸る

海日生殘夜 江春入舊年

海日 残夜に生じ 江春 旧年に入る

鄉書何處達 歸雁洛陽邊

郷書 何れの処にか達せん 帰雁 洛陽の辺

清らかなる山の水かも蟹とると石をおこせば砂のながるる

(島木 赤彦)

半紙部規定課題A

8月25日正午必着

如家
此山
正

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

8月25日正午必着

行書

家山正
如此

隸書

家山正
如此

明石春浦先生書

草書

家山正
如此

行草書

家山正
如此

池中の島はすがすがしい木陰におおわれ 遊興の船をうかべる人もない
山中の蟬は鐘をうちならすかのように啼き 花におく露は水晶のようにまるい
静の極みの中に、朝夕をすごし 奥深く観照すれば、すでに玄妙に達する
故郷もちょうどこのようであらうものを どうして帰田の賦を吟じないのであろうか

林館避暑

羊士諤

池島清陰裏

無人泛酒船

山蛸金奏響

花露水精圓

静勝朝還暮

幽觀白己玄

家山正如此

何不賦歸田

林館に暑を避く

羊士諤

池島清陰の裏

人の酒船を泛ぶるもの無し

山蛸金奏響き

花露水精円かなり

静勝朝還暮

幽觀白己に玄

家山正如此

何ぞ帰田を賦せざる

(出典)

朝日新聞社刊

「三体詩」下より

古拙如漢碣

古拙は漢碣の如し、

三浦士岳先生臨書

秦璽古拙如漢碣兼以彝器封泥靡不采精擷華運智哀拙星周心力俱瘁矣星周之造詣亦深矣夫刻印本不難而難於字體之純一配置之疏密朱白之分布方員

清 吳昌碩・行草書

吳昌碩は清朝の道光二十四年に浙江省安吉県に生まれ、中華民国一六年に上海で没した。(一八四四〜一九二七・享年八十四歳) 名は俊、長じて俊卿といい、字は昌碩、倉碩・蒼石・缶廬・苦鐵・老蒼などと号した。

清末から中華民国の初期は大動乱の時代で、十七歳の時に太平天国革命の争乱が郷里に及び、一家は離散した。彼は難を逃れてひとり湖北省・安徽省などを五年間流浪した。二十一歳の時によく故郷にたどりつき、年老いた父と再会し、一緒に百姓をして生計をたてていた。

吳昌碩は、若いときから仕官の道にはまったく興味を示さず、ひたすら文学、芸術に打ち込んでいた。二十九歳の時故郷を離れ、杭州・蘇州・上海と遊歴し、文学を愈懃に学び、書を楊岷に、画を任頤に学んだ。一九〇四年に金石書画の研究団体として西泠印社が設立され、彼は推されて初代社長に就任した。久しく蘇州に住み、晩年には上海に定住し、文墨活動に励んだ。篆刻は十代から始め、書は中年以降晩年まで石鼓文の臨摹に没頭したが、王鐸や米元章を習ったといわれる行草書にも篆書の用筆法をとり入れた独自の直線的なスタイルを作り上げていった。(春濤)

秦璽、古拙如漢碣、兼以彝器封泥、靡不采精擷華、運智抱拙、星周之心力俱瘁矣、星周之造詣亦深矣、夫刻印本不難、而難于字體之純一、配置之疏密、朱白之分布、方員

(精粹は) 秦璽の(如く) 古拙は漢碣の如し、兼るに彝器封泥を以てし、精を采り華を擷まざるは靡し、智を運らし拙を抱き、星周の心力は俱に瘁きたり、星周の造詣も亦た深し、夫れ刻印は本と難からずして、字體の純一、配置の疏密、朱白の分布、方員の(互異に) 難し、

素璽古拙為漢碣兼以魏器
 封泥靡不采精擷善運智

(精粹は) 秦璽の(如く) 古拙は漢碣の如し、兼るに魏器封泥を以てし、精を采り華を擷まざるは靡し、智を運らし

△做書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

洞庭西望楚江分 水盡南天不見雲
 日落長沙秋色遠 不知何處弔湘君
 長沙秋色遠 不知何處弔湘君

洞庭西望楚江分 水盡南天不見雲 日落長沙秋色遠 不知何處弔湘君 (李白)



かん
監

とく
督

中学一年

雨宮春聲先生書



と
渡

こう
航

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



せき じん

小学五年

榎戸春龍先生書



かい かく

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

8月25日正午必着



はな
花

び
火

小学三年

藤田幸春先生書



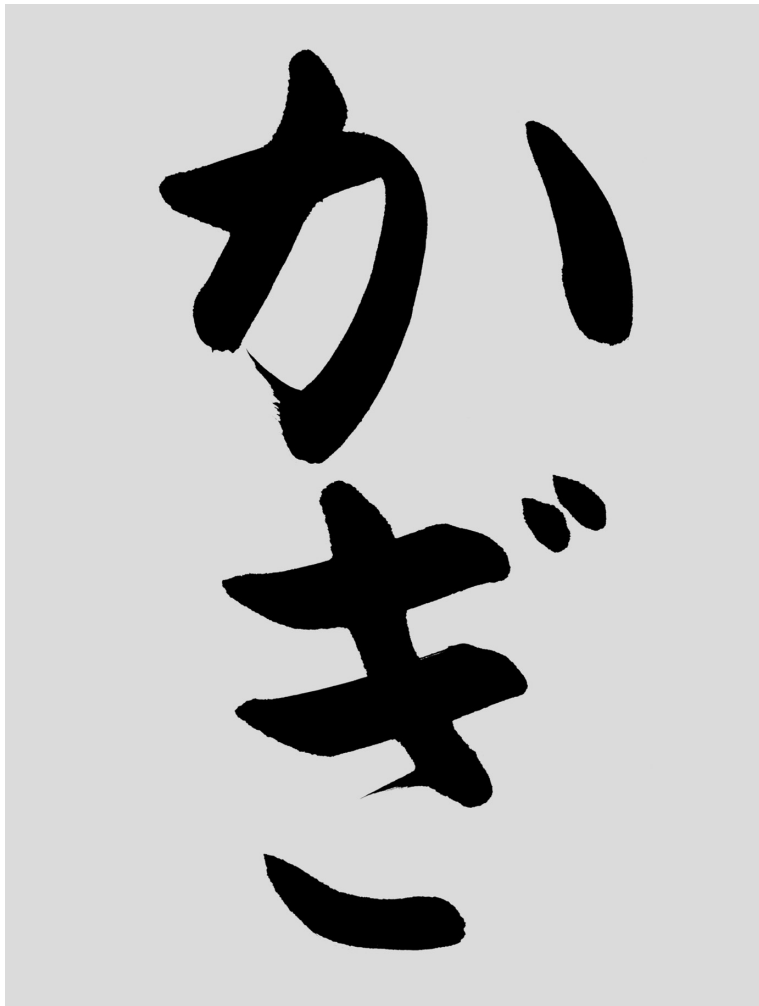
きん
金

ぎょ
魚

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

か ぎ 小学一年・幼年



森戸春濤書

やま がわ 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

心の迷いが時として失敗につながる

小学五年

道路を横断するときは車に気をつけよう

小学六年

初志はつらぬき通してこそ意味がある

中学

よい仕事をした後に一杯のお茶をすく

一般(級位)

蝉の聲きけば悲しな夏衣うすくや人のならむと思へば

一般(段位)

蝉の聲きけば悲しな夏衣^{なつころも}うすくや人のならむと思へば(紀友則)

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

な	う
	み
お	は
お	
き	ひ
い	ろ
な	い

幼年

か	う
	ら
な	の
い	林
て	て
い	せ
る	み

小学一年

の	三
は	び
な	き
し	の
を	子
き	ぶ
く	た

小学二年

か	と
海	う
を	台
て	の
ら	明
す	か
	り

小学三年

り	あ
の	す
天	は
気	晴
で	れ
し	後
よ	く
う	も

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

えわなまて こと
やまき せむい

あまらるるる

あま

あま



岩本景楓先生書

見わたせば 天のかぐやま うねびやま あらそひたてる はる霞かな
多世盤 可久 萬 有 悲 万 楚 多 類 者流 可那

(賀茂真淵)
かものまがら